目次

◇青森まるっとよいどころ祭り アンケート調査結果 …… 1
◇2016年度 地域研究センタープロジェクト 報告 …… 1～3
「地域創生」時代における地域経営・自治体経営の戦略的プロジェクト
国際観光都市青森へ向けたMICEの実践的プロジェクト
日本における留学形態の変遷と傾向およびパラダイムシフトに関する有効性の研究
佐々木多門が英紙ザ・タイムズに寄稿した記事の特定を試みる研究Ⅰ／青森の魅力を世界に発信
◇2016年度 公開講座 報告 …… 4
「ロシア」を学ぼう！／地域創生時代における青森の中小企業経営戦略を考える

青森まるっとよいどころ祭り アンケート調査結果

2016年10月1日（土）に本学主催で開催された地域貢献産業交流事業である『青森まるっとよいどころ祭り』について、本学学生が実施したアンケート調査の結果がまとまりましたので、一部をご紹介します。

来場者アンケートは、幅広い世代の163名の方から、会場の雰囲気やスタッフの対応、学生企画についてなど、肯定的なご意見・ご感想を多くいただきました。自由欄では「学生さんがイキイキしていて良かった」、「色んな食べ物が一度に食べられるので楽しかったです」などと回答いただき、学生がプロデュースした成果が見られました。詳しい結果を記載した報告書は、2017年4月から一年間まちなかラボでご覧いただけます。

2016年度 地域研究センタープロジェクト 報告

「地域創生」時代における地域経営・自治体経営の戦略的プロジェクト

地域社会の様々な主体を活かし、その活力を基に地域を経営することが重要な時代である。特に、日本の地域社会は自然や伝統文化に優れ、食文化も発達しているところが少なくない。その良さを十分活かした地域経営の充実、戦略的な展開を行っていくことによるブレイクスルー（現状打破）を起こしていくことが求められている。地域社会における各経営主体が優れた経営を目指し、お互いに個性と長所を認め、プロフェッショナルな経営を目指しつつ、優れた点を学びあい、短所を補いあい連携し、社会的に意味のある優れた価値を生み出す相互の取り組みこそが真の「協働」である。この協働の地域的展開が、地域経営である。

研究会の様子

本プロジェクトでは、2015年から実施しているスイスの事例研究をベースに国際比較及び、国内におけるモデル地域研究を実施している。地域経営では、地方において、大きな資本力がない中小企業やNPO／NGOが、その担い手の多くを占める。環境に優しく、むしろ自然や地域資源を大切に、その良さを引き出して地域資源を活用する地域価値創造戦略を行っていくことが相応しい。このような地域経営の基盤を整備し、競争のルールを策定し、諸経営主体間のコーディネイトを行って、優れた地域価値の創造と公共善を目指す取り組みを促進していくことが自治体経営である。スイスにおけるブルガーゲマインデと自治体との関係は、まさにこれである。

2017年2月には、アメリカでシティー・マネージャーを務められたマイク・ポールス氏（南カリフォルニア大学客員准教授）を招き、国内ではスイスの地域経営にもっとも近いと考えられる北海道の札幌市において、地域経営学会との共催で、地域経営の視点からの自治体経営の変革可能性を検討。札幌市副市長との意見交換も実施した。研究会を通じて、議会・マネージャー型制度改革の可能性、変革型リーダーシップ、ネットワーク型ガバナンス及び組織戦略の必要性が検討された。　　研究代表者：地域研究センター兼任研究員　遠藤哲哉

国際観光都市青森へ向けたMICEの実践的プロジェクト ～台湾・インド他諸外国との国際的協働から～

国際研究フォーラムの様子

本プロジェクトの目的は、世界の研究者・専門家（その道のプロフェッショナル）に青森での国際研究会・会議ツアー（MICE）の機会を提供し、異文化交流と地域をベースとした国際ビジネス振興の可能性を探ることである。そのために、別に企画した国際公開講座と一体的に国際研究フォーラム及び観光ツーリズムを企画し、日本の研究者、実践家、市民、学生と合同で、地域経営の視点からインバウンド国際MICE観光の可能性を社会実験的に探ってきた。

2016年12月に中国からの研究者を招聘し、国際研究フォーラムを開催した。2017年2月9日～11日には、米国、台湾、インドから大学研究者・プロフェッショナルを招聘し、全体で、連続3回の国際MICEを行った。この国際研究フォーラムの全体テーマは、「青森市における冬期インバウンド国際MICE」である。第1日目は、国際比較研究報告の後、地域経営システムについて、インバウンド向けライスバーガー開発及び、中小企業連携地域経営システム、メディア戦略に関しての国際研究フォーラムを実施した。第2日目は、酸ヶ湯温泉会議室において、八甲田・中心商店街、そして青森全体（日本、そして世界）を結ぶ地域経営システムについて、研究者と実践家との国際研究会を開催した。ニセコとカミフとの比較、酸ヶ湯温泉の歴史とプロモーション事例を素材に、地域経営振興について検討した。第3日目には、インドの地域戦略及び台湾の歴史について、またビジネス・エコシステムとしての地域経営に関する報告が行われた。

以上のように、本プロジェクトを通じて、各国の研究者とグローバルなネットワークを構築してきているが、今後、この取り組みを本格的に拡充継続させ、優れた青森市における地域経営モデルへと発展させていくことが課題である。本プロジェクトの実践的研究を踏まえ、インバウンド国際MICEを通じた国際ビジネスへの展開可能性（いかに地域ビジネスを“世界”とつなげるか）についても、今後一層の検討を加えていきたい。

研究代表者：地域研究センター兼任研究員　遠藤哲哉

日本における留学形態の変遷と傾向およびパラダイムシフトに関する有効性の研究 短期留学が市民的規範と一般的信頼感の意識に及ぼす影響

独立行政法人日本学生支援機構が実施している「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」によると、2014年度は約8万人の日本人大学生が海外留学を経験している。近年は多様な目的で短期間外国に滞在する「短期留学」が先進国等において増加傾向にあり、日本でも2014年度は全体の約97％が1年未満の短期留学経験者であった。

これまで、短期留学のソフト面での効果に関し、幾つかの研究が行われてきた。例えば、継続的なターゲット言語の使用、異文化的気づきや自己の自信獲得における効果などである。

今年度のプロジェクトでは、留学のソフト面に及ぼす影響の一つとして「市民的規範」と「一般的信頼感」を中心に調査を行った。Knack and Keefer（1997）を参考に「拾ったお金を自分のものにしてしまうか」など、一般的市民規範の遵守意識に関して、日本人大学生約60名にアンケート調査を行ったところ、短期留学の経験があるなしに関わらず、日本人大学生は高い市民規範の遵守意識を示した。一方、Yamagishi and Komiyama（1995）を参考とした一般的信頼感に関する意識調査では、留学経験のある学生の方が「一般的信頼感」が高い傾向がみられた。「一般的信頼感」が高い人々とは、対人関係の中で適切な情報を敏感に受け取り、そういった情報をもとに、適切な行動・対応が取れる「社会的に賢い人々」という見解もある。急激なグローバリゼーションの中、適切な行動がとれる「社会的に賢い人々を育てる」ために、本学及び青森県の短期留学プログラムが少しでも役立つことを願い、今後も研究を継続する予定である。

参考文献：Knack, S. & Keefer, P.（1997）. Does social capital have an economic payoff? A cross-country investigation. *The quarterly Journal of Economics, 112*(4), 1251-1288

Yamagishi, T. & Komiyama, H.（1995）. Significance and the structure of trust-Theoretical and empirical research on trust and commitment relations-. *INSS Journal, 2* , 1-58.

研究代表者：地域研究センター兼任研究員　香取真理

佐々木多門が英紙ザ・タイムズに寄稿した記事の特定を試みる研究Ⅰ
～コーパス言語学における形態素分析を援用して～

佐々木多門は、明治から大正にかけて日本の経済界で活躍した、青森県平内町出身の経済学者であり、英文筆家です。多門はネイティブ・スピーカーのような英語力を身に付け、東北大学等で英語の教鞭を執ったり、高橋是清に請われ日本銀行に入行したりと、英語人として多くの業績を残しています。そして、その中の一つに、戦前イギリスの高級紙タイムズに論文を寄稿していたことが挙げられます。

しかし、このことは、当時のタイムズ掲載記事に多門の署名がなかったり、タイムズ本社に記録が残っていなかったりして、実は証明されていませんでした。そこで私たちは、多くの歴史的な資料や関係者の証言をもとに、多門がタイムズに寄稿していたという事実を明らかにしました。

そして今年度は、多門がタイムズに寄稿した記事はどれなのかを特定しようと考え、形態素分析を援用して計量的な観点から筆者を推定する手法を取り入れ、研究を進めてまいりました。簡単に説明しますと、たくさんのタイムズの記事のデータをコンピュータにかけて、多門の英文と同じような特徴を有しているものを割り出し、それらが多門による記事ではないかと推論するという方法です。

今回は、多門がタイムズに寄稿していたと推定される時期の中から、33本の記事を抽出して分析したところ、20本の記事が多門によるものではないかという結論を得ました。この結果は、これまでの研究からおおよそ予想していましたが、今回改めて客観的なデータをもって証明することができ、本研究をまた一歩進めることができたと思います。

しかし、これらはあくまでも間接的な証拠をもとにしたものであり、今後は直接多門が書いたという証拠を見つけることが重要であると考えています。多門の記事が特定されれば、多門の思想・主義を明らかにすることができます。これからも牛歩でありますが、多門研究に邁進していきたいと考えています。

研究代表者：地域研究センター兼任研究員　丹藤永也

青森の魅力を世界に発信
～青森県中学生の英語リーディング能力と情報発信力の向上を図る　青森を題材にした英語リーディング教材の開発に関する研究Ⅰ～

本研究の目的は、中学生がふるさとである青森について理解を深め、英語で青森の魅力を紹介できる表現力を身につけるために、青森を題材にした英語リーディング教材を開発することです。自分のふるさとに誇りを持ち、それを英語で世界にアピールする能力の育成は地方の国際化において喫緊の課題であると言えます。この教材により、英語リーディング能力の向上はもちろんのこと、青森に対する興味・関心や問題意識を高め、深く郷土を愛する心情を涵養することができるものと考えます。

ここでは今年度作成した教材文の一つを紹介します。弘前の桜を題材にした教材ですが、桜の木のケアにはりんごの剪定技術が応用されており、一年を通して樹木医によって守られているという内容です。

弘前人の努力の結晶：世界一のさくら
The fruits of the wisdom, passion, and continuous effort of the people in Hirosaki:
Cherry Blossoms in Hirosaki

Hirosaki Park is one of the most famous tourist sites for cherry blossoms in Japan. More than two million people, even from foreign countries, come to see cherry blossoms during Golden Week every year. People of the Tsugaru area celebrate the end of the long and severe winter. They feel happy among the full blooms of cherry blossoms.

There is a castle in the center of Hirosaki Park. It was first built in 1611 but was burned down by a thunderbolt in 1627. The present one was rebuilt in 1810. The most popular view is the castle framed by cherry blossoms from Gejobashi bridge. This scene symbolizes Hirosaki. Moreover, you shouldn't miss the night view of it. You can feel a mysterious atmosphere beyond the time.

By the way, do you know about the life of cherry trees? Cherry trees will weaken and the number of flowers become fewer if they have lived over 50 years. There are about 2600 cherry trees in Hirosaki Park. Many of them, in fact, are over 100 years old. But they are still lively and can have horizontal branches and a lot of flowers. These old trees look more stable than young trees.

Then, why can old cherry trees in Hirosaki Park produce such brilliant flowers? The answer to this question is in the pruning technique. Hirosaki is the largest producer of apples in Japan, so the pruning technique for apple trees was well developed. Formerly, to cut cherry trees was considered a taboo. One day people who took care of cherry trees tried to use the technique for the apple trees to cherry trees. They wanted to recover old cherry trees. This original pruning method is called the "Hirosaki system." As a result, many old cherry trees have returned to health and show us beautiful flowers in spring.

Finally, you must not forget the people who protect cherry trees. Specialists called arborists, tree doctors, care for the cherry trees of Hirosaki Park throughout the year. In midsummer they have to give trees water to protect from the heat, and in winter they try to remove heavy snow so that branches will not be broken. Sometimes they treat trees which have illness and problems. Tree doctors always worry about the cherry trees like their own children. If they continue to take care of cherry trees, they believe that the trees can live forever.

Yes, the cherry trees of Hirosaki Park are the fruits of the wisdom, passion, and continuous effort of the people in Hirosaki.

研究責任者：地域研究センター兼任研究員　丹藤永也

2016年度 公開講座 報告

「ロシア」を学ぼう！

本講座は、青森公立大学講義室および国際交流ハウスで開講されました。ロシア文化やロシア語能力検定試験について講座形式で学び、実践形式の講座では、代表的なロシア料理「ボルシチ」をつくりました。

延べ67名の方に受講いただき、楽しみながらロシアについて知っていただけたと思います。講座中は受講生の方から多くのご質問をいただき、大盛況のうちに終了しました。

講座に関するご意見、ご感想を多くいただきましたので、一部をご紹介します。

ご意見・ご感想

- 初めてのボルシチ作りとても楽しくいい体験でした。ロシアの先生のお話もとても興味深く楽しかったです。
- ロシアの文化や歴史を知ることができたのでよかった。
- ロシア語の知識は全くありませんでしたが、ロシア語検定の話そのものをおもしろく聞かせていただきました。

地域創生時代における青森の中小企業経営戦略を考える ～地域経営の観点から～

本講座は、フェスティバルシティ・アウガ5階男女共同参画プラザ「カダール」研修室で行われました。本学教員をはじめとした専門家が、地域創生時代に中小企業が必要とする経営戦略を提案しました。

延べ107名の方に受講いただき、中小企業経営の参考にしていただけたと思います。講座中は受講生の方から多くのご質問をいただき、大盛況のうちに終了しました。

アンケートに多くのご意見、ご感想をいただきましたので、一部をご紹介します。

ご意見・ご感想

- 高校では学ぶことのない講座の内容で、IT分野には興味があったので現代の技術について知ることができてよかった。
- プロモーションビデオがいろいろ楽しめた。現場の声が聞けてよかったです。

多目的サテライト 青森公立大学まちなかラボ

本学の教職員、学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口として、ご利用下さい。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 アウガ6階
電話：017-718-7025　Fax：017-776-2082
E-mail：lab@b.nebuta.ac.jp
http://www.nebuta.ac.jp/chiken/machinaka-lab/
開室時間　13：00～21：00
（毎週日曜日、年末年始、アウガ休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。）

編集発行　青森公立大学　地域研究センター　2017年3月発行　ISSN 1882－4218